令和元年度　武雄市立山内西小学校　学校評価結果

資料２

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
やる気いっぱい　笑顔いっぱい　元気いっぱい 輝　く　山　内　西　の　子	「地域と共にある学校」の推進。 官民一体型学校「武雄花まる学園」「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」等の取り組みを通して、風通しのよい学校の風土をつくる。

達成度　A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　知的な学校・・・知的好奇心の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	**協働的に学び合う教職員集団づくり**	・全職員が「授業づくりのステップ１・２・３」の自己評価において、「ステップ３」に達する。 ・互いの指導方法や指導技術を共有化できる体制を構築し、学級経営及び授業力の向上を図る。	・「ステップ１・２・３」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・「学力向上・研究推進委員会」を定期的に開催し、研究部と推進委員との連携を図り、組織的に研修を進める。 ・全職員が仮説に基づく研究授業を行い、事前（模擬授業研）、事後（授業研究会）の研究の充実を図る。 ・全職員で指導方法や指導技術について学び合う「先生やる気タイム」を月１回行い、協働意識を高める。	B	・「授業づくりチェックシート」による評価は、4月時点では各項目の平均が1.40で、１２月時点では平均1.79と上昇した。隔月ごとに振り返りを実施したことで意識づけができた。 ・前年度の流れを受けて、校内研と学力向上を一元化し組織的な研修ができた。手探りではあったが、「プログラミング教育」の授業実践をした中で、授業可能なカリキュラムを組み立てることはできた。しかし、計画性や研究の組織づくり、プログラミング教育の内容に対しては課題が残っている。 ・全職員の学びの場として２回の学力向上研修会、２６回の校内研、各学年部の模擬授業研など開催し、積極的に研修を進める雰囲気はできてきている。	・年度当初に「西部型授業」について共通理解を図り、「ステップ１２３」のチェックシートを今後とも活用していきたい。 ・研究の最終年度になるので、公開授業の持ち方、プログラミング教育の年間の流れや学年間の系統性についても考えたい。 ・年度初めは「先生やる気タイム」を実施して、職員間の学びの雰囲気づくりに努める。
教育活動	●学力の向上	**習得した知識・技能を生活や学習で活用する力の向上**	・全ての学年において、単元テストの正答率が80%を上回る。 ・県学習状況調査12月調査の全教科で、学力向上対策評価シートの本校到達目標を達成する（4年生は県平均以上）。	・学習状況調査やＣＲＴ、単元テストの結果を分析、考察し、児童の実態に合った指導方法、指導形態を考える研修の場を設定し、共通理解のもと指導を行う。 ・週3回朝の時間に「はなまるタイム」を行い、学習意欲の向上を図る。 ・全校で統一した自主学習に取り組み、参考になるノートを掲示し、児童の意欲を喚起する。 ・「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。 ・「学力向上だより」を定期的に保護者に配布する。	B	・学習状況調査の結果では県の正答率と同等か若干下回る傾向にあった。CRTの結果は２年算数科のみ正答率が80%を上回っていた。学力向上は本校の課題である。 ・「花まるタイム」は確実に実施されてはいるが、年度当初や途中で、目的や実施方法等について確認をしながら進めていくことが必要である。 ・各学級の自主学習では、「めあて」から「ふりかえり」まで形式を整えて全校で取り組んだ。各学級で模範になるノートを掲示したり内容を指導したりして継続することができている。 ・「家庭学習の手引き」は家庭訪問時に保護者に伝えることができた。「学力向上だより」は学習規律に関する内容で数回発行しただけだった。	・学力向上については、共通理解・共通実践で今後も取り組んでいきたい。特に、情報を精選して記述をすることや必要なことを読み取って回答していくことに課題があり、授業の中でも随時指導していくことが必要である。 ・今後も自主学習を継続し、学び方を身につけさせたい。学校からの通信を利用して、家庭の協力、理解をもらえるように定期的に発信していきたい。
教育活動	●志を高める教育	**自らの夢や目標をもち、それに向かって努力しようとする気持ちを高める教育活動の推進**	・児童アンケートで、授業内容が「わかった」「できた」と回答する児童を80%以上にする。 ・自分の目標に向けて頑張りたいとする児童を80%以上にする。	・授業の振り返りを毎時間実施する。 ・全ての教科や学校行事を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・毎日の授業がわかると回答した児童が95%、学習や生活で目標をもって取り組んでいると回答した児童が87%であり、目標を達成することができた。 ・「授業づくりのステップ１・２・３」や「授業改善チェックシート」を活用して、教職員が授業の質の改善を目指して、共通理解・共通実践してきたことが、結果につながったと思われる。	・学習や生活面で、より具体的な目標を持たせる手立てを行うことで、活動への意欲を高めたり、活動後の振り返りをより効果的に生かしたりできるようにする。
教育活動	○プログラミング教育の推進	**プログラミング的思考の育成**	・自ら課題を立てて学習に取り組むことができたと回答する児童を８０%以上にする。 ・振り返りを次の学習に生かすことができたと回答する児童を８０%以上にする。	・ポートフォリオを作成し，見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・校内研において授業研究会を行い，自ら課題を立てることのできるような学習指導の在り方について共通理解を図る。 ・授業の振り返りを毎時間実施させる。 ・毎時間の振り返りが一目で見渡せるようなポートフォリオ形式を開発する。	A	・自ら課題を立てて学習に取り組むことができたと回答する児童が90.3%、振り返りを次の学習に生かすことができたと回答する児童が81.6%であり、どちらも目標を達成することができた。 ・ＯＰＰポートフォリオを作成し、学習に活用することで、常にめあてと振り返りを意識しながら学習に取り組む児童の姿が見られた。	・振り返りを次の学習に生かす児童が若干少ないので、ポートフォリオを有機的に活用できるよう声かけをしたり、より見やすいポートフォリオの作成に努めたりする。

②　居心地のいい学校・・・自己肯定感の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	**一人一人がよりよい生活を目指す指導の工夫**	・生活振り返り週間（西っ子よい子のくらしカード）の自己評価で、「できている」と回答する児童を90%以上にする。 ・児童一人一人が落ち着いて生活し、「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上にする。	・低学年は、毎日振り返りを行い、保護者と協力して言葉かけを行う。また、中・高学年は「生活振返り週間」に自己評価を行い、意識付けを行う。さらに、学級だよりなどで保護者に結果を知らせ、啓発する。 ・「ノーテレビ、ノーゲームデー」と、掃除前の立腰を委員会活動の一環として、児童が呼びかける形で取り組ませる。 ・職員連絡会で気になる児童についての情報の共有をする。情報の共有からケース会議につなげたり、ＳＣや関係機関等へつなげたりする。 ・要支援児童に配慮した支援方法について職員研修を実施するとともに、学習指導や教材を工夫する。 ・「ふれあいタイム」の時間、運動会、青空教室等で、異学年交流の機会を設ける。	B	・生活の振り返りをし、意識付けはしているが、生活リズムがなかなか改善できない児童や家庭がある。 ・毎月20日に「ノーテレビ、ノーゲームデー」を設定し、放送で呼びかけをしたり、結果を校内に掲示したりして意識付けを行った結果、取り組み率が高まった。 ・職員連絡会では、気になる児童の情報を共有し、ＳＣや関係機関につなげた。 ・教育相談と特別支援教育に関する研修を行った。 ・うれしの特別支援学校の巡回相談を利用し、指導法や教材の工夫などのアドバイスを受けた。 ・「ふれあいタイム」の時間、運動会、青空教室で異学年交流活動が十分にできた。6年生がリーダーとなり下級生の世話をすることができた。 ・児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」と回答した児童が88%だった。	・早寝・早起きやテレビやゲームの時間を守れていないところがあるので、家庭への呼びかけを続ける。 ・委員会活動の一環として、児童が生活習慣を改善する取り組みを行う。
教育活動	●いじめの問題への対応	**いじめを見逃さない環境の構築**	・「やまうち合言葉」の「優しいことばを周りの人に」を意識して行動できる児童（自己評価で）を90%以上にする。	・共通認識のもと、教師も「さん、くん」をつけて名前を呼ぶ。 ・「教育相談」「いじめアンケート」「先生あのね」を実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・毎週の職員連絡会で「気になる児童」の情報交換をし共通理解を図る。 ・「平和を考える週間」「人権週間」を設け、全クラスで人権意識の育成を目指した取り組みを行う。	A	・教師自身が言葉遣いに気を付けることで、児童同士の関わりや児童への指導に生かすことができている。 ・教育相談週間を年２回実施し、２回目はアンケートの内容から「気になる児童」を中心に教育相談を行った。 ・週間や集会等を設けたことにより、人権に対する意識を高めることができ、学級づくりに活かされた。	・今後も、児童への指導の仕方を共通理解し、気になる児童の情報を共有していく。 ・今後も教育相談週間を実施し、児童の悩みやいじめの早期発見・早期対応に努める。 ・平和集会や人権集会等は不易な学校行事として継続するとともに、更に人権意識を高める授業実践や学級経営を行う。
教育活動	○立腰教育の推進	**立腰三原則の徹底**	・立腰がきちんとできる児童（自己評価で）を90%以上にする。 ・気持ちのよい返事・あいさつ・言葉遣い・話を聞く姿勢・はきもの揃えを意識して行動できる児童（自己評価で）を85%以上にする。	・朝読書から姿勢を意識させ、放送に合わせて指導する。 ・授業前後は立腰をし、学ぶ姿勢を整えさせる。 ・昼休み終了後、掃除の準備ができた児童は立腰し、1分前には全児童が立腰の姿勢で開始を待てるように指導を行う。 ・「生活振り返り」を年２回集計し、その結果を踏まえた指導を行う。 ・環境委員会がトイレのスリッパ並べ、掃除道具の後片付けをチェックし、放送で称賛する。 ・挨拶運動を実施したり、全校朝会や学校便りで称賛したりして、意欲付けを行う。 ・履物揃えが習慣化できるように指導を行う。	A	・毎朝の立腰タイムや清掃前の立腰タイムでの意識づけができている。 ・全校であいさつ運動に取り組むことにより、あいさつをしようとする意識を高めることができ、アンケートによると９０%を達成することができた。 ・環境委員会が履物そろえの実態について、毎週放送し全校へ啓発することで学校評価アンケートにおいて９０%を達成することができた。 ・現在、返事がきちんとできていない児童の様子が見受けられる。	・返事ができている児童を称賛し、全体が意識し、定着できるように指導を継続する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	**校務・教育活動の効率化**	・全教職員（管理職を除く）の月平均の超過勤務時間を４５時間以下にする。	・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、１８：００までに施錠する。 ・毎月、職員に超過勤務時間を個別に伝え、超過勤務縮減への意識を高める。 ・全ての会議において終了時刻を明確化し、会議の効率化を図る。 ・各プロジェクトの意向を踏まえ、行事の精選及び会議の縮減を進める。 ・職員研修を実施し、ワークライフバランスの意識を高める。	A	・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、掲示物を作成して呼びかけたことで、18:00には全職員が退勤することができた。 ・職員会議等すべての会議の終了時刻を明確にしたり、職員室内のパソコンを使って連絡事項を済ませたりしたことで、会議の効率化を図ることができた。 ・毎月の超過勤務平均時間は、41時間となり、目標を達成することができた。	・超過勤務時間の個人差があるので、個別に声をかけて、ワークライフバランスの意識を高めていきたい。

③　元気な学校・・・挑戦心の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体力つくり	**体力向上を目指す意識の向上**	・健康的な生活を意識させ、「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組める児童を95%以上にする。 ・全ての学年で、スポーツチャレンジに１種目以上取り組む。	・「西っ子よいこのくらしのカード」や「生活振り返りカード」を用い、子どもや保護者に早寝・早起き・朝ご飯の意識付けを図る。 ・清潔検査を月曜日に行い、結果を放送して意識を高める。 ・手洗い、うがい、歯磨きを放送等で呼びかけ、習慣化を図る。 ・なわとび週間中、掲示コーナーを設け、児童の意識を高め、自主的な練習を促す。 ・昼休みに、運動委員会を中心にスポーツチャレンジに取り組む場を設定する。	B	・早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができていると考える保護者は９５%だった。このことから、多くの児童が基本的な生活習慣を身につけている。 ・今年度は、運動委員会の活動としてスポーツチャレンジではなく、全校遊びを実施した。さらに、走ろう週間も行い、児童が運動に楽しみながら取り組むことができるような活動を行った。 ・アンケートでは、体育的行事が体力の向上に繋がっていると答えた保護者が９５%以上だった。	・今後さらに早寝・早起き・朝ご飯を意識してもらうために、保健だより、食育だよりの活用や学級通信での啓発を行う。 ・今後も、外遊びを奨励するような放送を入れたり、外遊びが楽しくなるような行事を設定したりする。
学校運営	○地域の学校づくり	**「コミュニティー・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり**	・各学年の教育内容に応じて、適切な地域人材の協力を得られる体制を整備する。 ・保護者アンケートにおいて、「開かれた学校づくりに取り組めている」の回答率を90%以上にする。	・地域の人材活用計画を職員に示し、どの時期にどのような学習をすればよいか確認できるようにする。 ・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で積極的に情報発信する。	A	・家庭科ボランティアや生け花体験等各学年で地域人材を活用した教育活動を計画的に実施することができた。 ・保護者アンケートの「地域の中の学校として開かれた学校づくりができている」と回答した方が９８%に達した。	・今後も、地域の人材活用計画を職員に示し、地域人材を活用することで児童の学びがより深いものとなるようにしていきたい。 ・地域と連携した教育活動の様子を、学校だよりやホームページ等で積極的に発信していくことを継続していく。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

①知的な学校【知的好奇心の育成】について
　佐賀県教育委員会研究指定事業「プログラミング教育」の1年目だった。自ら課題を立てて学習に取り組むことができる児童が90パーセントに達したことから、児童が見通しをもって学習に取り組めるような教師の指導力が向上したと考えられる。次年度は、プログラミング教育の年間計画、学年間の系統性、公開授業のもち方、研究の組織づくりについて全職員で共通理解し、共通実践に更に励んでいきたい。

②居心地のいい学校【自己肯定感の育成】について
　週１回気になる児童の情報を全職員で共有したり、教育相談週間を年2回実施したりしたことで、児童の悩みやいじめの早期発見に組織的に取り組むことができた。また、SCや関係機関と連携を取って、不登校傾向児童への対応策を講じることができた。次年度も引き続き、SCや関係機関との連携を強化して、いじめの早期発見や不登校児童へのよりよいアプローチをしていきたい。

③元気な学校【挑戦心の醸成】について
「西っ子よいこのくらしのカード」や「生活振り返りカード」を用いて、保護者への啓発を図ったことで、基本的な生活習慣を身に付けている児童が95%に達した。また、体育的行事の工夫によって、児童の体力向上につながった。次年度も、外遊びを奨励するような放送をしたり、外遊びが楽しくなるような行事を設定したりして、児童の健康・体力つくりの向上を図りたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目